琉球大学学術リポジトリ

# 絶滅の恐れのある沖縄県の野生維管束植物の現状－沖縄県版レッドデータブックの改訂作業と今後の課題－



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学21世紀プログラム |
| | 公開日: 2007-07-10 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 横田, 昌嗣, 松村, 俊一, Yokota, Masatsugu, Matsumura, Shun'ichi |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/816 |

# PS-22　絶滅の恐れのある沖縄県の野生維管束植物の現状
## －沖縄県版レッドデータブックの改訂作業と今後の課題－

横田昌嗣[1)]・松村俊一[2)]

[1)] 琉球大・理・海洋自然　[2)] 琉球大院・理工・COE

沖縄県の維管束植物相は、多様性・固有性・遺存性が高いことで特徴づけられている。沖縄県の面積は日本全土の0.6%に過ぎないが、多数の小島嶼からなることから、もともと個々の種の自生地や個体数が少ないうえ、開発や採集などの人為的な影響で多くの種が絶滅の危機に瀕している。

日本全体の維管束植物を対象としたレッドデータブック（以下、RDBと略記）は、NGO版が1989年に発行され、環境庁版は2000年に発行された。沖縄県の植物だけを対象とした沖縄県版RDBは1997年に発行されたが、カテゴリー区分や判定基準が環境庁版とは異なるため、一般に使用する際に様々な問題が生じていた。1997年の発行から約10年を経て、自然環境の改変が一層進み、絶滅の恐れのある種（以下、絶滅危惧種）の現状が変化したため、新カテゴリーと数値基準を導入して、沖縄県版RDBの内容の改訂を行った。

改訂版の特徴として、（1）数値基準を導入した、（2）海域の生物が大幅に追加された、（3）情報不足種（旧版の未決定種）の評価に努めた、等の点があげられる。特に情報不足種については、沖縄県に産すること自体に疑問が持たれていた種を、現地調査や標本調査を精力的に行うことによって、他のランクに評価し直すかRDBから削除した。旧版と改訂版では、全体の種数は大きくは違わないが、旧版では未決定種（改訂版の情報不足）が137種であったが、分類学的再検討などを進めた結果、改訂版では情報不足種が86種に減少した。一方で、新たに追加された種が31種あり、結果として絶滅の危機にある種は確実に増加していると言える。改訂版では686種の維管束植物がリストされたが、これは沖縄県産維管束植物の総種数1748種の約39%にあたる。

減少の要因（かっこ内は要因が該当する種数）としては、もともと希少（574）、開発（528）、採集（186）、移入動物の食害（32）、農薬散布（30）、遷移の進行（17）、移入種との競合（11）等があげられる。絶滅危惧種の数は、沖縄島（425）、西表島（301）、石垣島（286）、与那国島（95）、宮古島（71）、久米島（65）、伊平屋島（59）、伊是名島（47）、魚釣島（35）、南大東島（31）、北大東島（26）等の順となり、開発の程度が高く、面積の大きい島ほど種数が多くなる傾向が見られた。単位面積あたりの絶滅危惧種の密度は、魚釣島（9.16）、伊是名島（3.39）、与那国島（3.35）、伊平屋島（2.82）、北大東島（2.31）、石垣島（1.28）、久米島（1.11）、西表島（1.05）、南大東島（1.01）、宮古島（0.45）、沖縄島（0.36）等の順となり、沖縄県の中でも特色ある植物相を持つ島嶼で密度が高くなる傾向があった。

これらの結果をもとに、改訂にあたっての問題点、保全のための今後の課題について述べる。